

安曇野の地形を正確に見通して、拾ヶ堰を実現した先覚者

中島 輪兵衛 (なかじま わへい) 穂高 柏原出身

<輪兵衛が活躍した時代> 1752年(宝暦2年)～1838年(天保9年) 享年86歳

1752年(宝暦2)	1790頃(寛政)	1812年(文化9)	1814年(文化11)	1815年(文化12)	1816年(文化13)	1838年(天保9) 6月18日
穂高柏原の庄屋の家に生れ	讃岐の金比羅大権現を参詣	孫三郎・輪兵衛の六郎右衛門掛	輪兵衛・高孫一・尾右衛門組の大庄屋	輪兵衛は調査を右衛門開始する。	二月から完成。始めた難工事が三	亡くなる。

拾ヶ堰(じっかせぎ)とは…

美しい風景の安曇野を彩る清らかな水の流れ。まるで緩やかな傾斜を北アルプスに向かって登っているような錯覚を覚えます。長さ15kmの水の流れは、1816年に民衆の手によってわずか3か月で作られました。現在もお安曇野の地を潤し豊かな恵みをもたらしてくれています。平成28年には、国際かんがい排水委員会によって「世界かんがい施設遺産」として登録されました。



中島輪兵衛の功績

その① 水源を奈良井川に求める先見の明

輪兵衛は、遠く奈良井川から水を引くことなど誰も考えられなかった時代に水源を求める考えを、完成の25年も前から主張していました。そのために遠く讃岐の金比羅大権現を参詣し、自宅へ勧請します。今も輪兵衛自宅の裏に残っています。またその旅の途中で各地の灌漑施設の技術を見て回り、拾ヶ堰設計の参考にしています。微妙な傾斜は3000分の1(1km進んで30cm下がる)の高低差。北アルプスから流れ出るいくつかの川が土を堆積させ出来上がった複合扇状地の安曇野。本来農業には不向きな地形であった地に、拾ヶ堰は豊かな潤いをもたらしました。



中島家に現存する測量器

輪兵衛は木製の測量器を使って自分の目で確かめながら安曇野を歩き、570mの等高線に沿うように拾ヶ堰を作る場所を決めていった。

その② 短期間の間に実現

拾ヶ堰の水を引くための測量を輪兵衛中心に行いました。綿密な調査の上、9人で15kmの長さを、当時の簡単な測量器を使ってわずか18日間で成し遂げました。実際の工事においても、もっこや鍬などを使った手作業で、わずか3か月間という驚異的な期間で完成させました。

その③ チームの中心者となり民衆を導いた

輪兵衛は工事の立案者となり、リーダーとして働きました。農民の幸せを思い、拾ヶ堰を始めとする公共事業に生涯を捧げました。幕府への交渉役として奔走しまとめ役となったのは柏原村の庄屋・等々力孫一郎。延べ67112人の賃金を私財から出して賄ったのは白沢民衛門。その他、平倉六郎右衛門(世話役兼堰廻役)岡村勘兵衛(人夫出役)白沢民右衛門(会計担当)らでチームとなってこの大事業を進めました。

拾ヶ堰完成後輪兵衛は、竹林者柏翁の名で次の狂歌を詠んでいる

浅からぬ 君の恵みの 深喜四里 流れてここへ 木曾川の水

尚、拾ヶ堰についての全記録を「中島輪兵衛記録」として遺し、詳細を現在に伝えています。これほどの記録は他に類がなく、これも輪兵衛の偉大な功績の一つといえます。

【参考文献】

- 安曇野市HP「安曇野市ゆかりの先人たち」 「安曇野水風土記」 インタビュー 中嶋達郎氏
- 「安曇野開発史の研究」 小穴芳実著 信毎書籍出版センター 1990年3月20日発行
- 「安曇野と拾ヶ堰 中島輪兵衛の記録」北野進著 企画出版安曇野 「拾ヶ堰ハンドブック」長野県拾ヶ堰土地改良区 拾ヶ堰応援隊
- 「安曇野の朝焼け 賢い女と、志をもった男たちの物語」長岡昭四郎著 企画出版安曇野 「常念山麓」中島博昭著 企画出版安曇野